

# 株式会社コーイー・テック

# 紙中心の情報伝達からデジタルデータを活用することで、業務の効率化をはかり、開発、品質向上に注力。

## 株式会社コーイー・テック 品質連絡体系デジタル化 概要・実証計画【1/2】

### 企業概要

企業名	株式会社コーイー・テック
所在地	愛知県瀬戸市
代表	滝沢 公彦
資本金	1,000万円
従業員数	50人
事業内容	自動車を始めとした産業用特殊ボルトの製造販売



「ボルトを超えていく価値を」  
 直角度や同軸度等、幾何公差が必要となる特殊ボルトの量産生産、販売をメインに行っているメーカーです。  
 自動車を始めとした、各産業でご利用頂いております。

### 概要



### デジタル化推進の背景

- 現状、アナログ（紙）で情報伝達を行うケースが多く、その集計、保管に多くの人貢と時間がさかれている。これをデジタル化することにより、その人貢と時間を、本来生き残りに必要な開発、品質向上に回すためにDXの推進を行いたいと考えている。

### 実証体制



- 当社は従業員が少なく多くの人数を割けないため、総務部が中心となり、常務、工場長がサポートする体制で推進を行った。

# 製品の不良連絡を紙からデジタル化することで、業務の省力化、効率化、スピードアップを目指す。

## 株式会社コーエー・テック 品質連絡体系デジタル化 概要・実証計画【2/2】

### 最終的にデジタル化で達成したいこと

- 人材不足を解消するため、人がルーティン業務で行っている手作業の業務を効率化し、その能力を他の開発や品質向上、新規顧客獲得等、新たな価値の創造に使っていく。

### 今回実証で実施したいこと

- 現在、紙で連絡を行っていた社内不良についての連絡書をデジタル化することにより、①報告者の業務負荷の軽減 ②管理者の集計作業の軽減 ③連絡のスピードアップ を目指すものとする。

### 目標とする成果

- アプリを作成し、現場から管理者へ情報連絡がデジタルで行えるようになること、また、その内容について、デジタルで展開、集計等ができるようになることを目標とする。

### 実証で利用するツール

導入ツール	kintone (キントーン)
導入費用	ライトコース：月額 780円～ スタンダードコース：月額1,500円～
ツールの説明	<ul style="list-style-type: none"><li>➢ 業務アプリが作れるサイボウズ株式会社のノーコード・ローコードツール。</li><li>➢ 顧客・案件管理、企業間のやり取り、ワークフロー、日報・報告書など幅広い業務のシステム化や効率化を実現。</li><li>➢ プログラミングの知識がなくても、ドラッグ・アンド・ドロップで業務アプリを作成することができる。導入先は、IT部門より非IT部門の方が多い。</li></ul>



### 【使用事由】

当社のやりたいことを説明させて頂いた際、当事業を受託されているトーマツ様よりアドバイス頂いたため。  
また、汎用性が高く、取り扱いの容易さ、使用実績数が多い為参考になる情報がWEB等で探しやすい、といった理由もあり。

# アナログで伝えていたこと全てをデジタルに反映させるのは難しい。現場の意見も大切にデジタル化を推進。

## 株式会社コーエー・テック 品質連絡体系デジタル化 実証実施結果【1/3】

### 解決を目指した具体的な課題

#### 不具合事象報告・対策対応

##### (1) 現状

これまでは不具合が発見された場合、

- ①発見した担当者が報告書作成
  - ②上司に報告
  - ③品質保証部へ報告
  - ④工場長判断
  - ⑤集計
  - ⑥発生区へ連絡
  - ⑦対策報告
  - ⑧品櫃保証部確認
- としていた。

##### (2) 問題点

- ①紙に記入しているため、保管場所の確保や過去の事象報告を探すのが非常に大変。
- ②連絡体系が紙の移動のため、時間がかかる。
- ③発生不具合事象の集計はExcelで行っているため、紙の内容を毎日、入力する必要があり大変。
- ④発生区への連絡も紙のため、作成に時間がかかり、かつ元データとのリンク作業も人間がしなければならない。

### 課題解決に向けた具体的な取組内容

#### 不具合事象報告・対策のデジタル化

- 紙で発行している不具合報告を、kintoneでアプリを作成してPC又はタブレットを用い、電子データで報告する体制の構築。
- この仕組みを現場に教育、現場からの報告をデジタル（kintone）で行い、品質保証部で確認、対応ができるようにする。

# 紙からデジタル化したことにより、報告、入力工数が減少し、効率化を進めることができた。

## 株式会社コーエー・テック 品質連絡体系デジタル化 実証実施結果【2/3】

### 実証時に感じた壁および克服のためのアクション

#### 【実証時に感じた壁】

##### 紙と電子の差

- 不具合事象について、紙では詳細を書いて意思を伝える事ができていたが、デジタル（特にkintoneのフォーマット）では、集計を行う為に分類化しなければならないといった問題が発生した。

#### 【克服のためのアクション】

- 現状の不具合事象をまとめ、表現等を社内で統一することで、現場、品質保証部の間でコミュニケーション障害が起こらないように工夫した。



### 取組に要した工数

全体統括	常務取締役	全体会議、運用ルール選定等 4時間/月
実証統括	総務部担当	アプリ作成、現場教育 80時間/月
実証担当	工場長	品質面確認、運用ルール選定等 8時間/月

### 取組の成果

#### 検査エリアの不良連絡がデジタル化

- 検査エリアからの不具合報告が紙から電子化された。

これに伴い、

- ① 報告時間の短縮（承認作業含め、1日→1時間）
- ② 品証部の集計時間の短縮（作業時間：1時間→5分）

ほどに短縮

# 人材確保が難しい今、成長にはデジタル化が必須と考え、 kintoneの導入を機に、デジタル化による効率化を進めて成長を続けていく。

## 株式会社コーエー・テック 品質連絡体系デジタル化 実証実施結果【3/3】

### 今後の課題・目標

### (デジタル化を推進する他企業への) メッセージ

#### (1) システムの定着

- 現在構築されたシステムを定着させ、安定した運用を行う。

デジタル化はとっつきにくく、過去経験したことのない業務だと思いません。当社でも仕組み作りも浸透も容易ではなかったです。

ただ、できるようになると、とても楽になります。

#### (2) 生産数管理システムの構築と、当該システムの連携

- 検査機等の生産日報のデジタル化と当該システムとの連動を行うことにより、検査数と不具合データとの連携ができる仕組みを考える。

人材が確保できない今、成長していくにはデジタル化による業務効率化は必要だと思っています。

今なら、昨今のDXブームにより、愛知県をはじめ、様々なサポートを安価で受けることができます。

共に頑張って、生き残っていきましょう。